

第1回審議会における各委員の発言要旨

以下は、第1回の審議会における各委員の発言を、学校教育の流れと地域・家庭との関係に模式化したフレームに配置して整理してみたものである。

(義務教育との関係)

今は、高校進学時に将来の職業を見越して進学しているのではないと感じた。(公平委員)

子供は、行きたい高校を選択しているのではなく、通える高校を選択している。(佐々木委員)

(学校づくり)

スポーツ面や職業を意識した高校づくりにも目を向ける必要があると思う。たとえ小規模校になったとしても、子供達を呼べる高校づくりが大切である。(公平委員)

親として、子供にとって、魅力ある＝入りたい、学ばせたい学校は、どうやってつくられるのか考えていきたい。(佐藤委員)

地元においても、高いレベルで学びながら、よい人生が送れる、そういった教育環境の整備について考えていきたい。(佐藤委員)

単位制の昼夜間定時制高校のように、将来の進路に必要な科目を踏まえ、自分の学びたいことを学ぶというスタイルは、これからの時代にマッチし、今後の再編の中でよい学校づくりの一方法と感じた。(木村委員)

農業高校には、多様な生徒が進学してきているが、農業教育の持つ教育力を発揮しながら人格形成している。そうした現状もみながら今後の教育の在り方を探っていきたい。(早坂委員)

個性を伸ばす学校づくりが必要。(渡辺委員)

高等学校

(高校教育)

魅力的な学校をつくるには、キャリア教育の充実による全ての子供への有感の付与と、教師の力量アップをどう考えていくか、の2つの視点があると思う。(本図委員)

農業とマーケティングが一体になった学校、京都の堀川高校とか。そういった新しい高校も研究すべき。(本図委員)

高校教育は多様性の中にある。その中で、生徒の生きる力、自己実現、進路の実現が達成されるような基本方針づくりができればありがたい。(北島委員)

子供達が夢を持てるような教育を具現化していくことが大切である。(佐々木委員)

教員の高齢化といった問題も気になる。(西山委員)

(生徒像)

富県戦略10兆円に向けて、どうい人材が必要とされるのかを踏まえて、教育を考えるべき。(白幡(洋)委員)

国際社会に対応できる人材育成といった面も考えながら教育を考えていきたい。(渡辺委員)

高校生の職場体験を受け入れ、アルバイトも使っているが、コミュニケーション能力という部分では難しい課題を抱えている子がいと感じている。(木村委員)

(高等教育との関係)

中学校や大学との関係、つながりの中での高校の在り方を考えていかねばならない。(白幡(洋)委員)

宮城の大学進学率の低さは、基礎的な学力、学ぶ意欲や姿勢に関連している。(菅野副会長)

高校卒業認定試験の導入が検討されている時代。そういう意味で、基礎学力や学ぶ意欲の問題についても、きちんと形を示す必要がある。(菅野副会長)

私立高校や大学との関係も含めて広く議論すべき。(白幡(勝)委員)

進出企業からは、地元採用分は、大卒は不要、高卒で十分だとのこと。親としては微妙なところ。(佐藤委員)

高校卒業すれば自立できる、それが社会の責任であり、そういう高校の在り方を考えるべき。(渡辺委員)

(社会との関係)

学生に学ぶ力を持ってもらうために、社会が、企業が、家庭が、学校がどう役割分担できるのかということを議論していきたい。(白幡(洋)委員)

高校に關係する各領域、各セグメントのできることを考えながら進められないか、特に家庭の下支えの役割など。(菅野副会長)

少子化の中で、社会や家庭、学校の連携の在り方なども考えていきたい。(渡辺委員)

高卒の離職率が高いというのが話題になる。学校だけの問題ではなく、家庭の問題でもあると思う。(阿部委員)

子育て支援との関係も考えるべき。(白幡(洋)委員)

(家庭との関係)

現構想に取り組んで8年経過しているが、そのデータ分析をきちんとしたい。(白幡(洋)委員)

県立高校の将来に関する骨太の方針をまず考えることが必要である。(西山委員)

経営的にみれば生徒数が少ないところは統合しちゃうとなるが、教育はそれだけで割り切れるものでもない。(猪俣委員)

いかに高校システムを超えるか、宮城県の中だけ、高校の中だけで考えていては、将来構想を語れない。(荒井会長)

(構想のあり方)

これまでのあり様をきちんと踏まえていくことで、そこにおもしろいことが隠れているのではないかと。(荒井会長)

県立高校の分かりやすいコンセプト、例えば「学力」「社会性」といったことを立て実践してはどうか。(西山委員)

地理的条件や学校の歴史・伝統、地域住民のニーズなどを踏まえながら、新しい構想をまともしていかなければならない。(高橋委員)

地域から支持される高校になることが第一に必要なことである。地域の子供達からあこがれの眼差しをもって、その学校に入りたいというような学校づくりをすることが大事である。(小澤委員)

高校が地域に何ができるのかといったことも考えていく必要がある。(小澤委員)

小規模であっても、地域と連携しながら、元気のある学校づくりをやっているところもある。そうした学校の在り方も模索すべき。(高橋委員)

地域と切り離して、子供達の育成はない。(高橋委員)

交通手段のことも考えながら、地域の人が支える地域の学校といったことを考えていかなければならない。(佐々木委員)

高校全入が社会的に認知されていることを踏まえれば、「機会均等」という理念も大事にしていかなければならない。(本図委員)

(地域との関係)